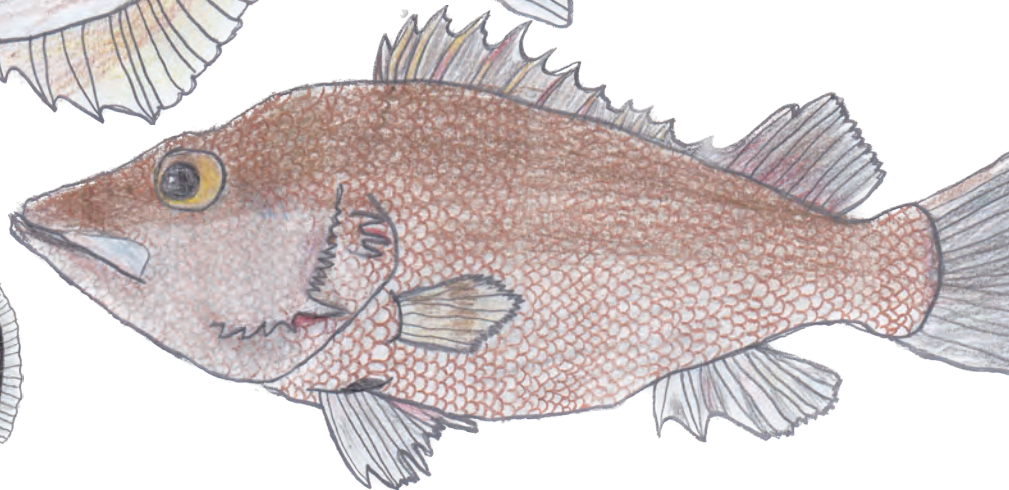
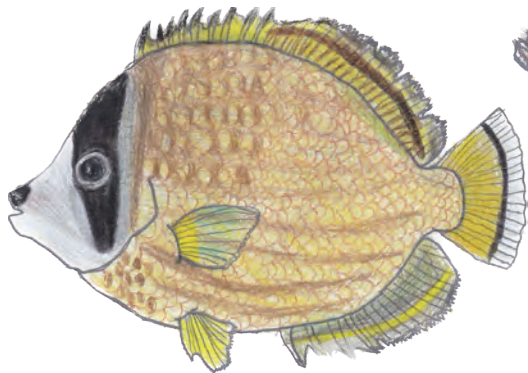
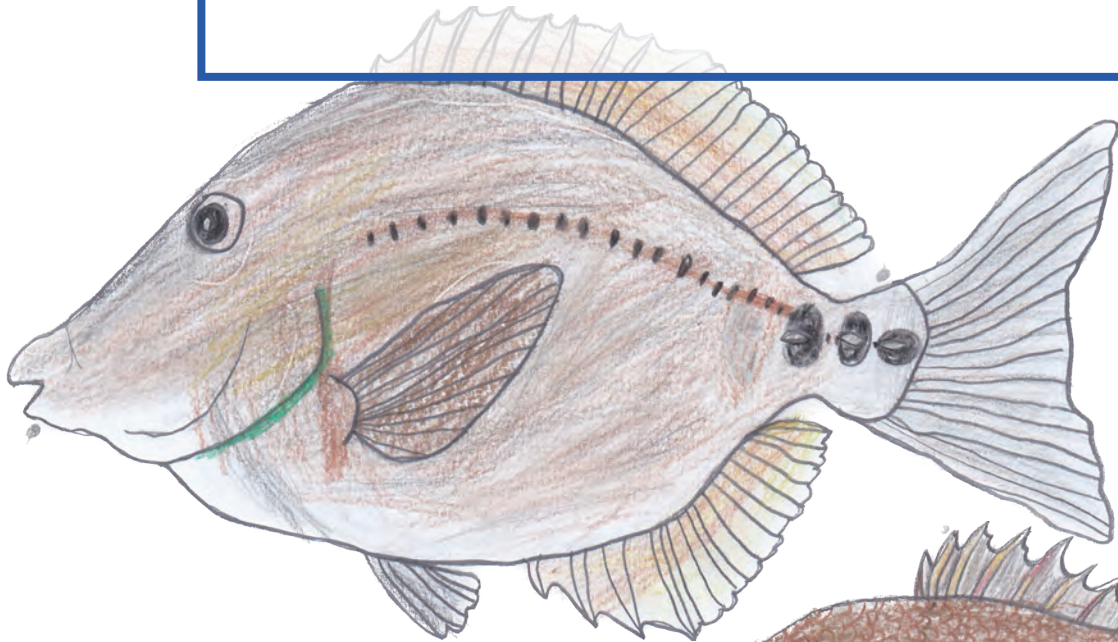
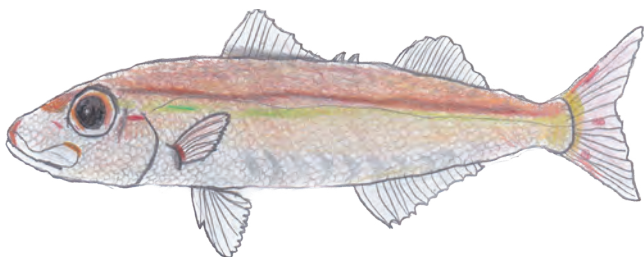


# 鯛の鯛図鑑

## 第三卷



佐々木 蒼大



# ワニエソ

(ヒメ目 エソ科)



ワニエソなどエソの仲間は、肉食の魚です。そのため、

口の中には小さくすどい歯がたくさん並んでいます。

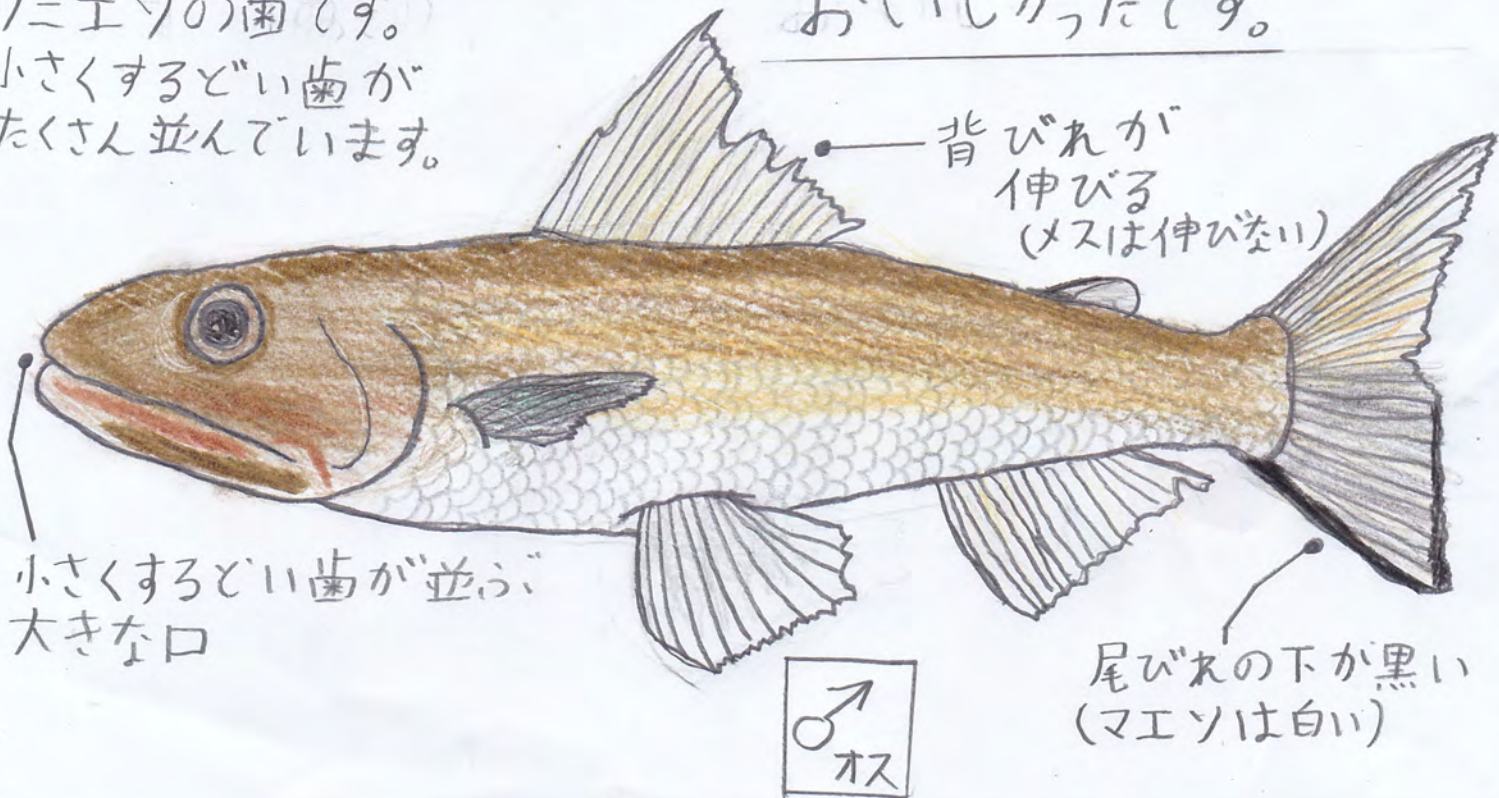
近い仲間のマエソとは、尾びれの下の色で見分けることができます。ワニエソは背びれの形でオスとメスを見分けることができます。

背びれが伸びているとオス、伸びていないとメスです。

エソの仲間は小骨が多く、かまぼこの材料にすることが多いですが、煮付けにしたら

おいしかったです。

写真の右側に写っているのが、ワニエソの歯です。小さくすどい歯がたくさん並んでいます。



小さくすどい歯が並び、大きな口

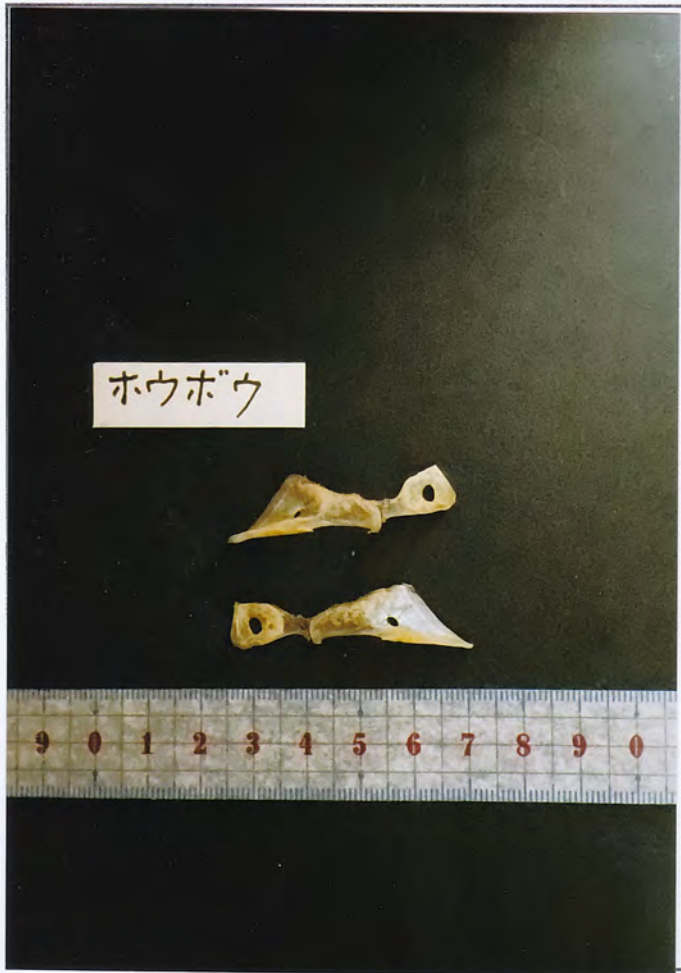
背びれが伸びる (メスは伸びない)

尾びれの下が黒い (マエソは白い)

♂  
オス

# ホウボウ

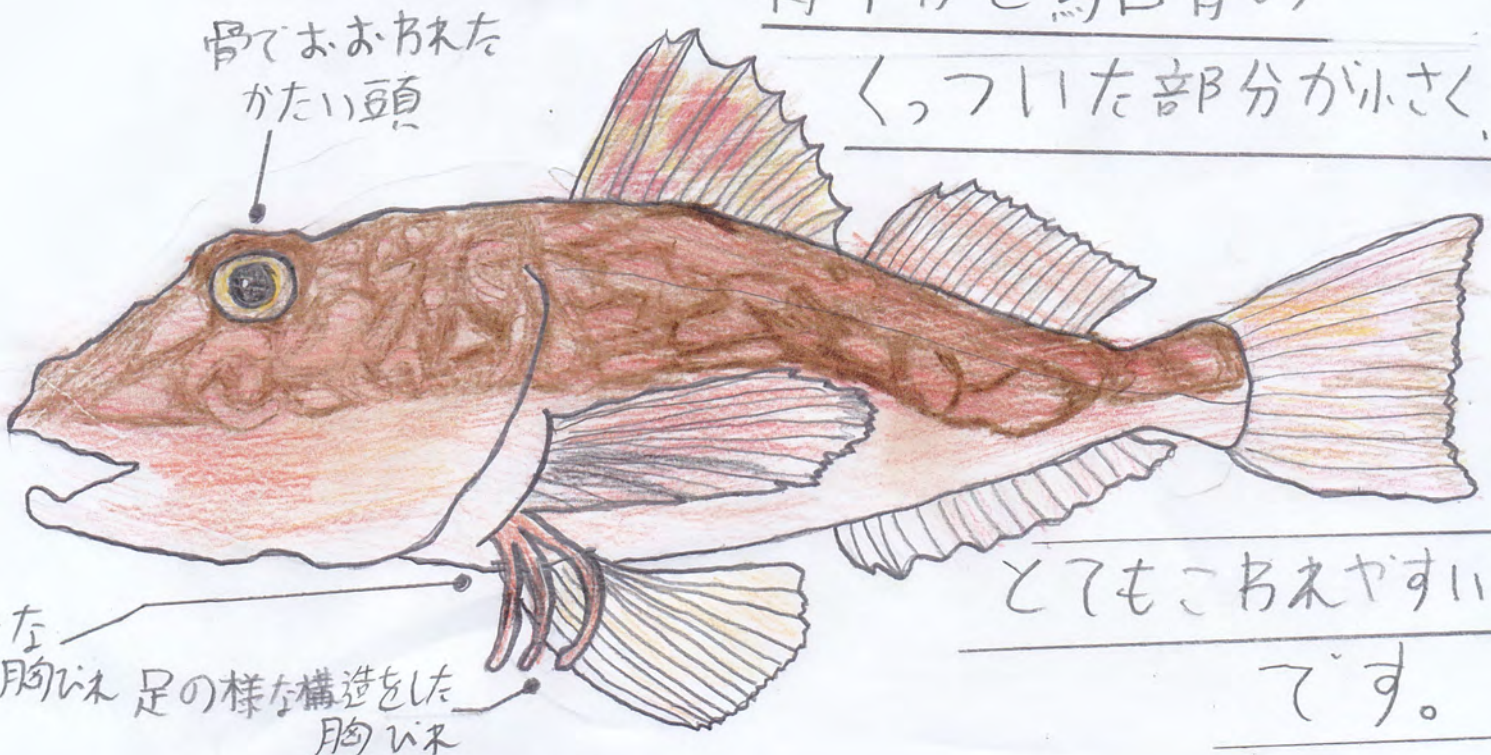
(スズキ目ホウボウ科)



ホウボウは、胸びねの一部が足の様な構造をしています。これを使って海底を歩く他にも、「味蕾」という細胞があり、えものの味が分かります。ホウボウは、うきぶくろをふるわせて鳴くことができます。この鳴き声から「ホウボウ」の名前が付いたとも言われています。全体的に地味な体色ですが、胸びねの内側は美しい緑と青色です。ホウボウのホウボウは、

## 肩甲骨と鳥口骨の

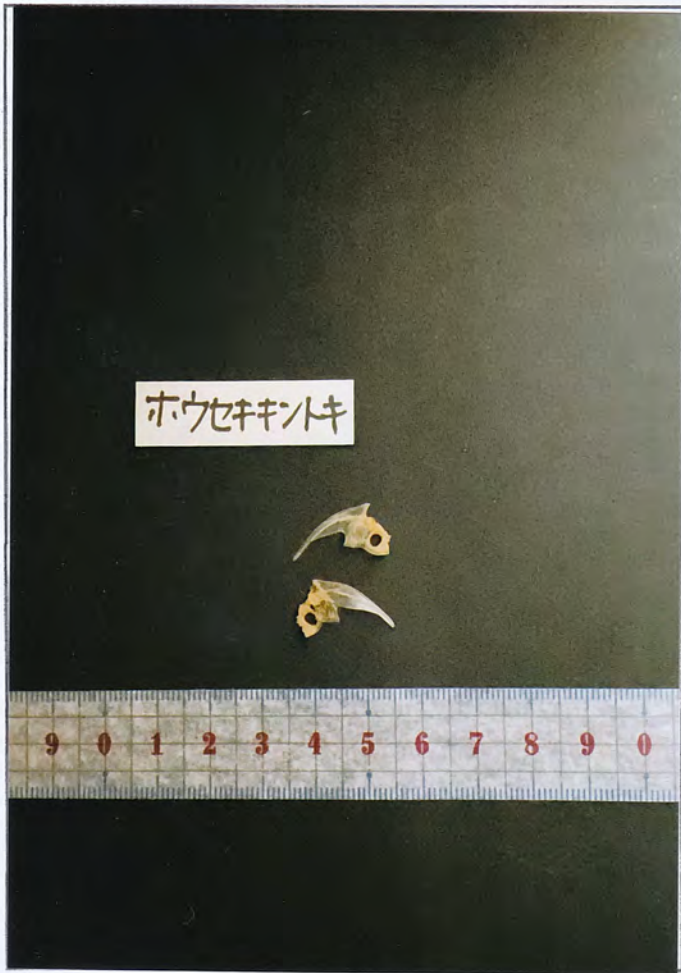
くっついた部分が小さく、



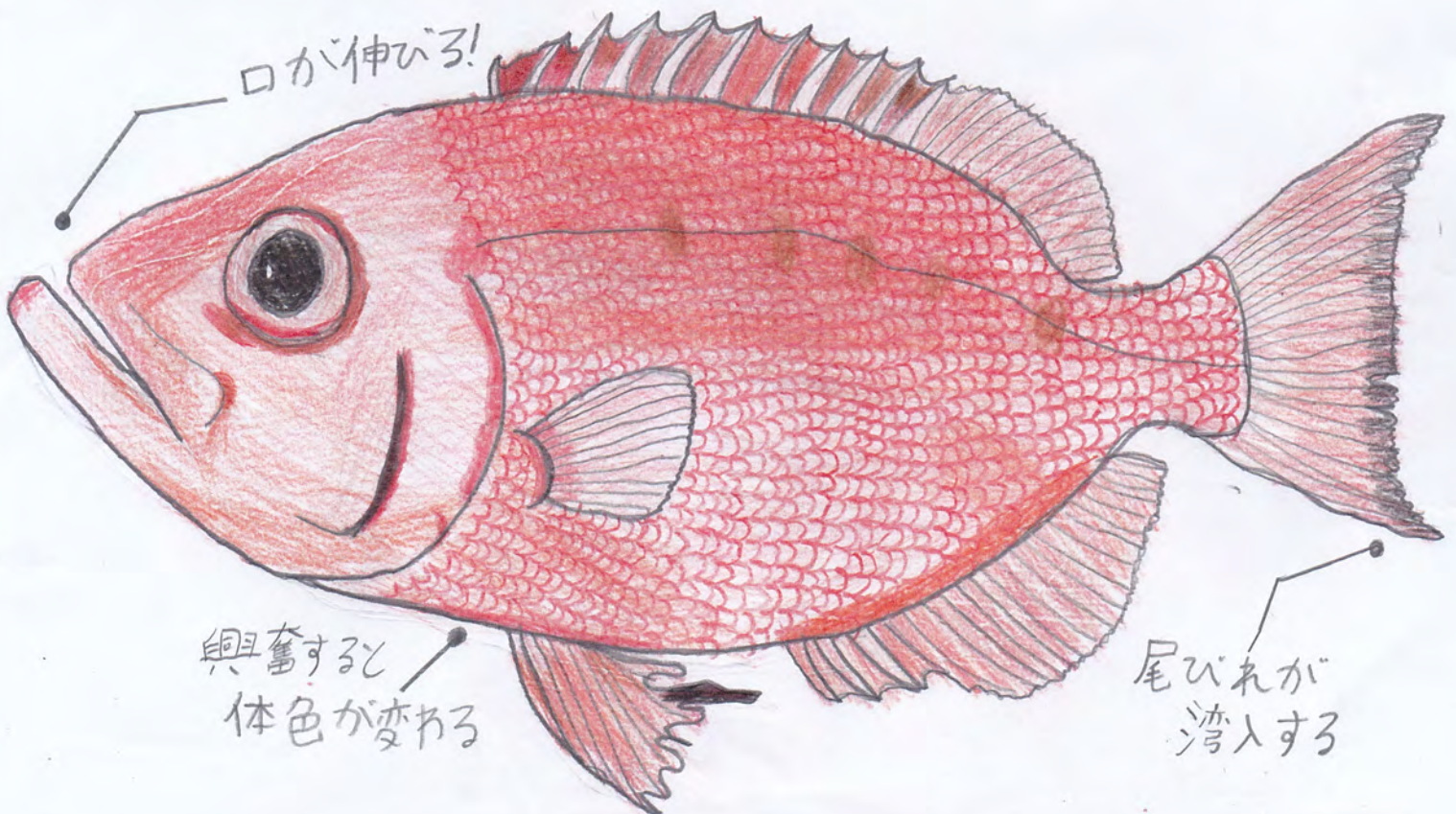
とてもおれやすいです。

# ホウセキキントキ

(スズキ目キントキダイ科)

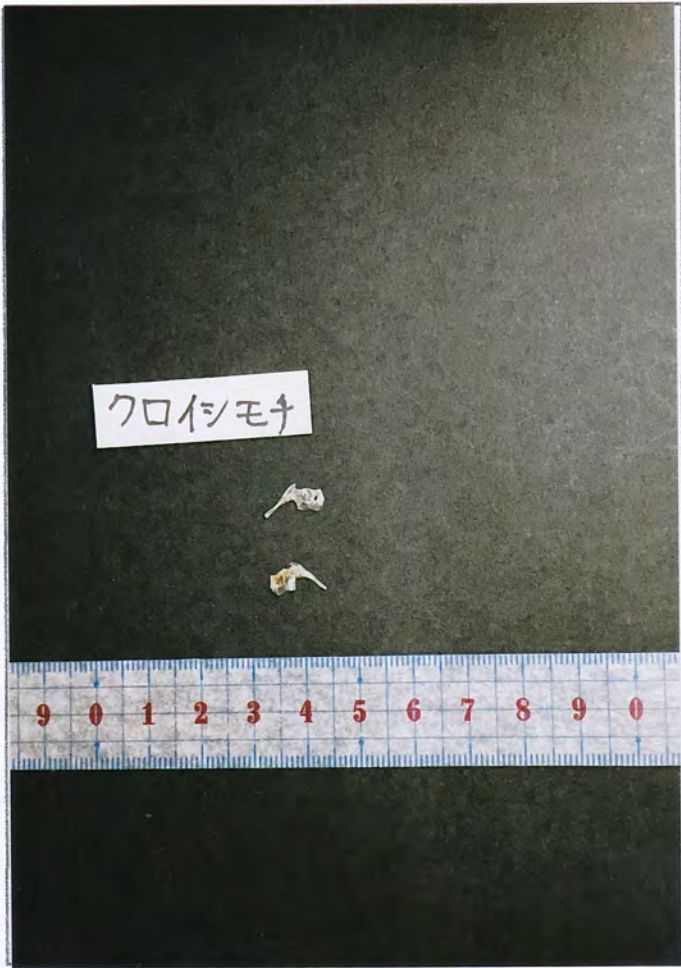


ホウセキキントキは、  
きれいな赤い体色が  
特長的です。この赤色が  
ルビーを思わせるため、  
「ホウセキ」が付けました。  
興奮した時などに銀色や  
しま模様に体色を変える  
ことができます。  
ホウセキキントキはあまり  
高い値段では売られませんが、  
とてもおいしい魚です。  
今回は煮付けにしましたが、  
刺身でも食べてみたいですね。

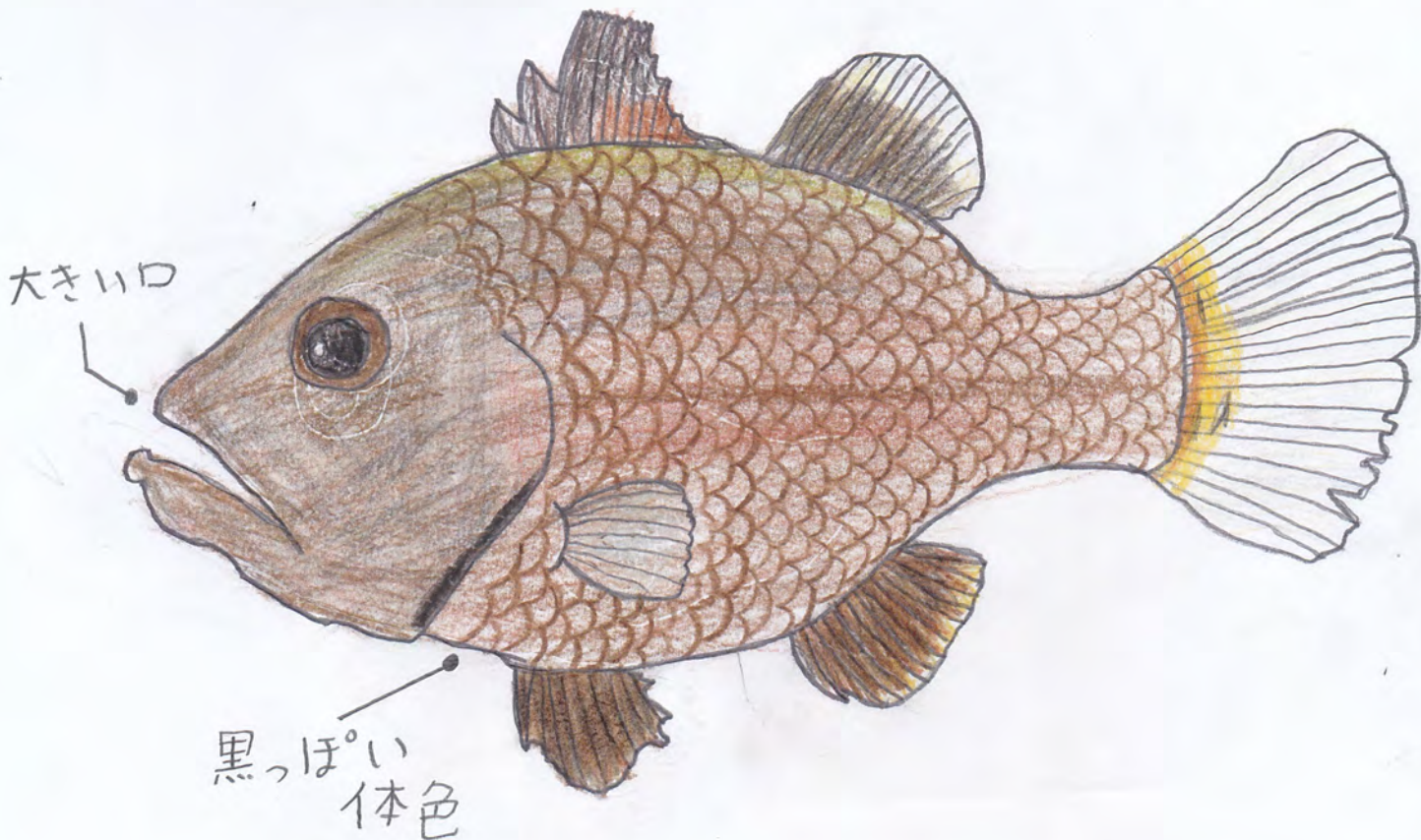


# クロイシモチ

(スズキ目テンジクダイ科)

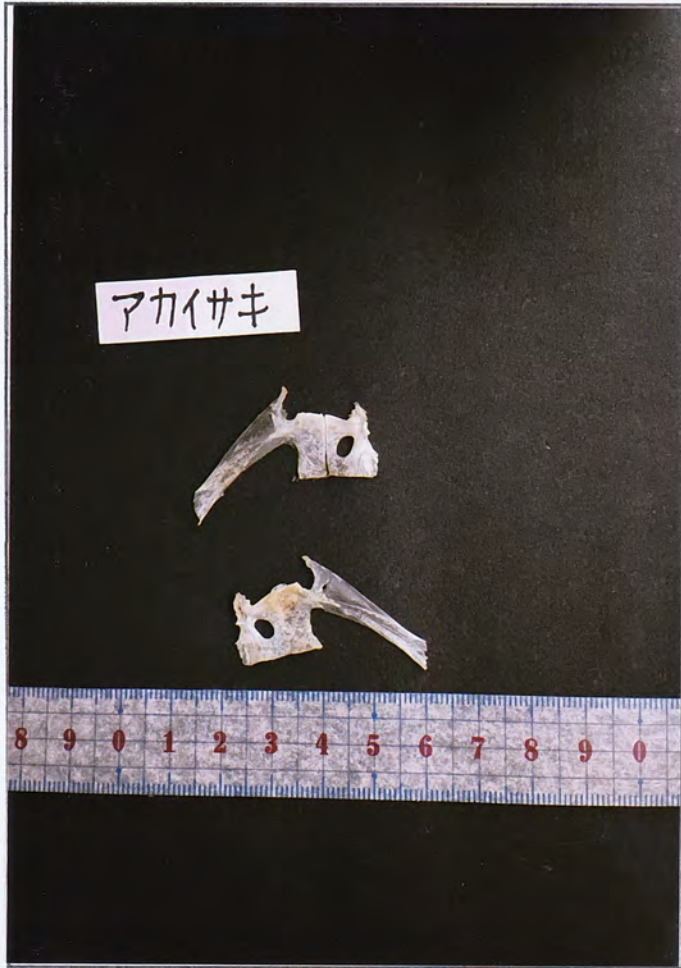


クロイシモチは、黒っぽい体色からこの名が付きました。耳石が大きいため「イシモチ」と付いたそうですが、同じく「イシモチ」と呼ばれる二種の仲間とは関係がありません。見た目は似ていませんが、ネンブツダイと同じ仲間です。クロイシモチも卵を口の中で守る口内保育をします。クロイシモチは色彩変異で金色になった個体が見つかることがあります。



# アカイサキ

(スズキ目ハタ科)



アカイサキはイサキに似て赤いので、この名が付いたようですがイサキの仲間ではなくハタの仲間の魚です。

漢字では「赤伊佐木」と書きます。今回食べたのはオスのアカイサキでした。

オスの体色はオレンジ色、ぽくメスは赤色、ぽいです。

口にはずるとい歯が並んでいました。アカイサキのアカイサキは、分類が違うのにイサキのイサキに似て

いました。

オレンジ色、ぽい体色  
(メスは赤色、ぽい)

背びれに黒い斑点  
がある  
(メスはない)

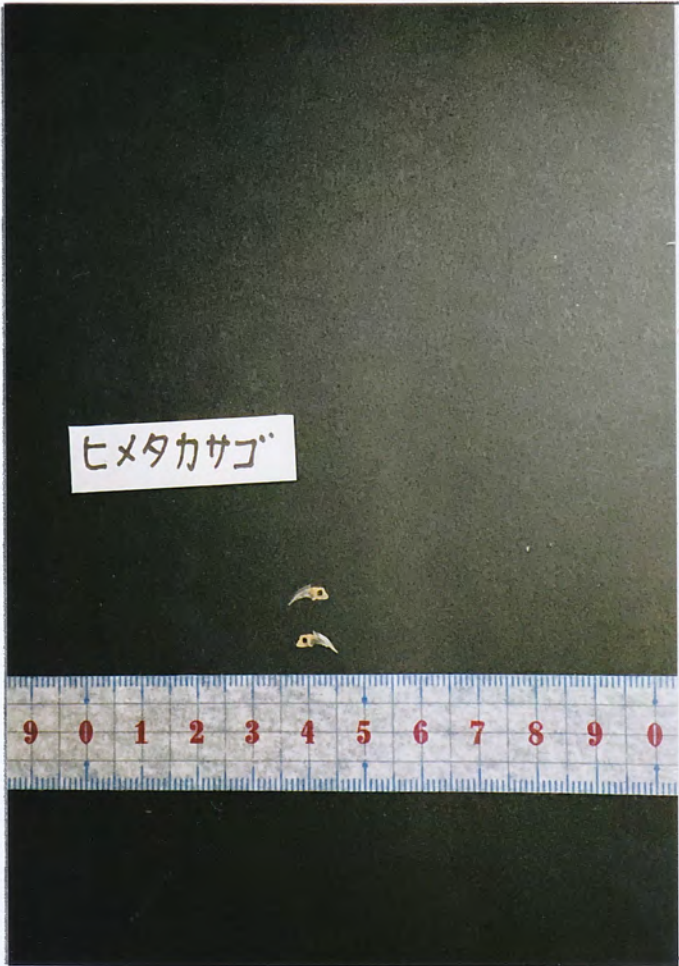
ずるとい歯が  
並んでいる



オス  
♂

# ヒメタカサゴ

(スズキ目 タカサゴ科)



ヒメタカサゴは、あまり

知られていない魚で、ぼく  
が持っているこの本にも

載っていませんでした。

ヒメタカサゴはとても小さい

魚で、最大でも14cmほど

にしかありません。この魚は、

魚屋さんでは売っていない魚

なので、三崎朝市のダンボール

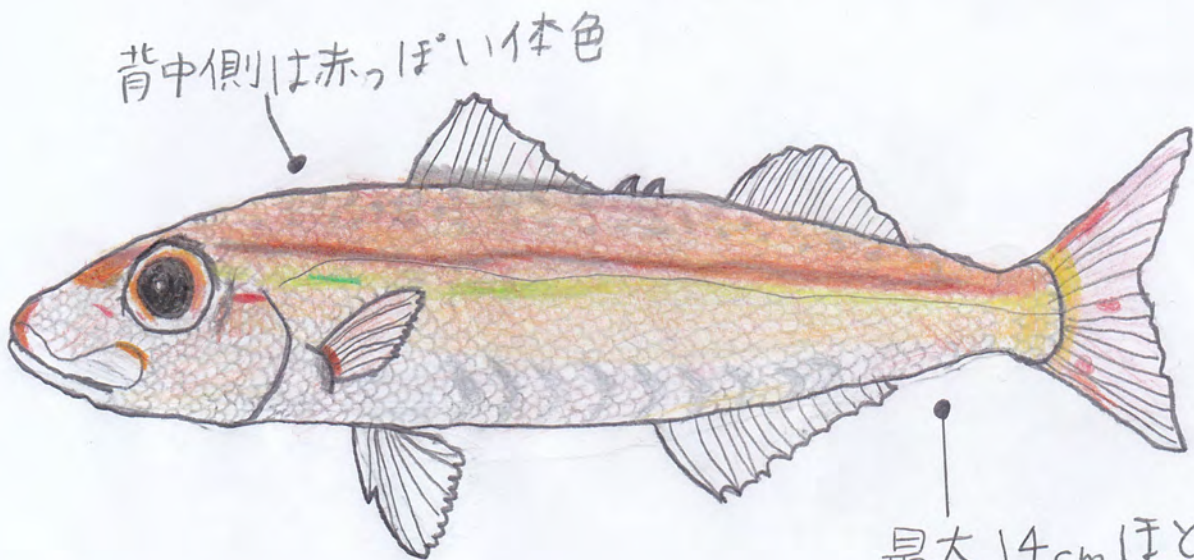
水族館でもらった物です。

小さくて可食部が少ないけれど、

おいしかったです。今回の

中でもヒメタカサゴのヒメ

タカサゴは最小サイズでした。



背中側は赤っぽい体色

最大14cmほど  
にしかならない  
小さい魚

# ツマグロハタンポ

(スズキ目 ハタンポ科)



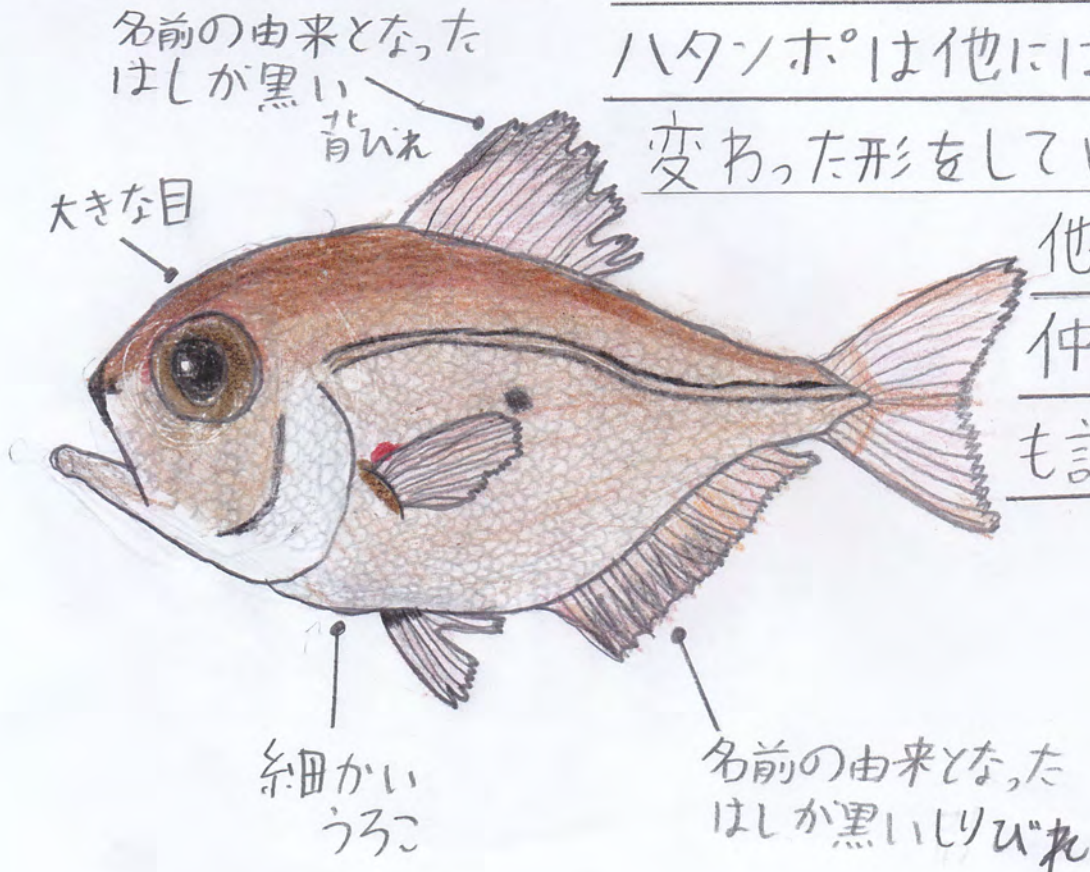
ツマグロハタンポは、背びれとしりびれのはし(つま)が黒いため、「ツマグロ」が付きます。ですが「ハタンポ」は由来が不明です。ハタンポの仲間は大きな群れを作ることがあります。

ですがツマグロハタンポはあまり大きな群れを作りません。

ツマグロハタンポは他の種類よりもうろこが糸田かく、はがれにくいです。

ツマグロハタンポのツマグロハタンポは他には無い変った形をしていました。

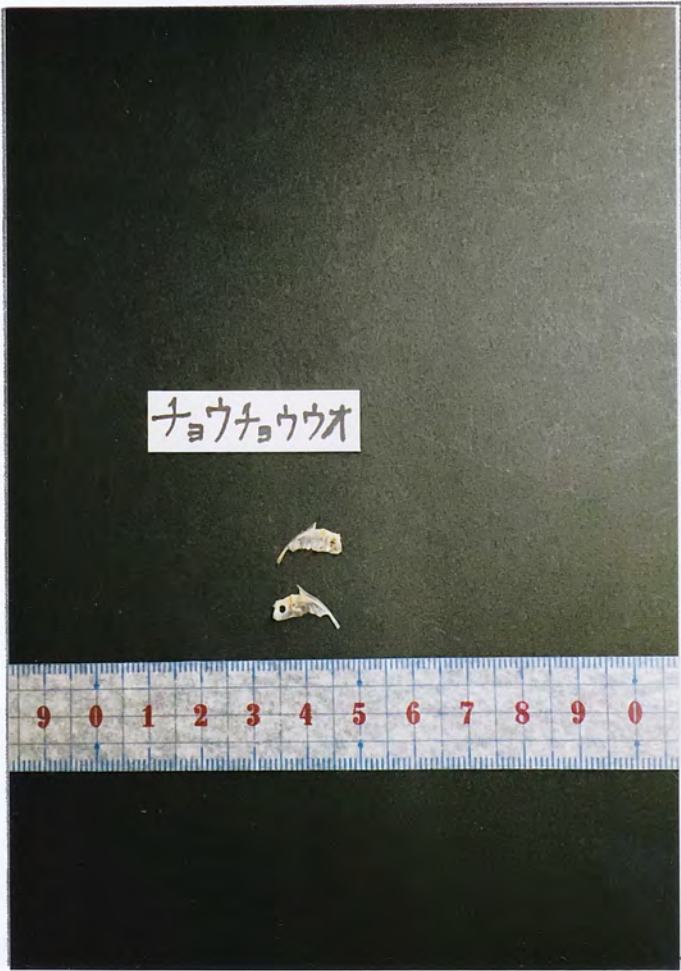
他のハタンポの仲間の魚周の魚周も言調べてみたい  
です。





# チョウチョウウオ

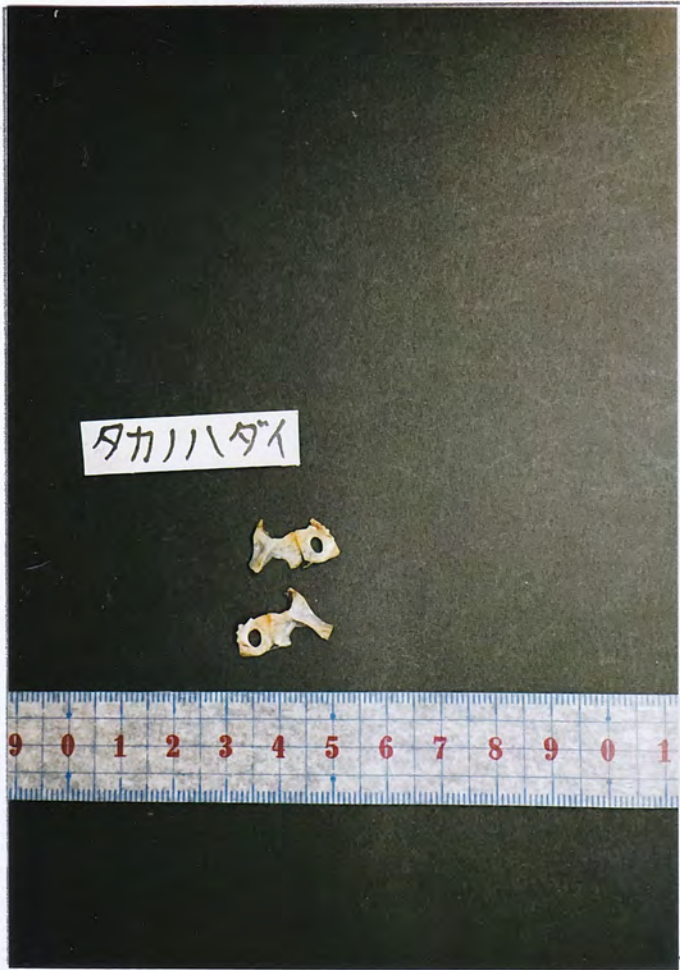
(スズキ目チョウチョウウオ科)



チョウチョウウオは、体が丸くて平たいです。チョウチョウの様にひらひらと泳ぐためこの名前が付けました。この仲間の多くは暖かい海のサンゴ礁に住んでいます。ですがチョウチョウウオは少し低い水温でも生きていけるため、日本の多くの地域で見ることができません。あざやかな体色をしているため、観賞魚として飼育されることもあります。たけと、調理して食べたらおいしかったです。色がきれいなのでマース煮にしました。



タカハダイ  
(スズキ目タカハダイ科)



タカハダイは、ななめの  
しまようが特長的です。  
このしまようがタカの羽  
のもように似ているため、  
この名が付けました。

タカハダイの胸びれには  
指のように伸びた軟条  
(すじ)があります。これで  
体を支え、岩の上などに  
立つことができます。

タカハダイは一見見ると  
南方の魚に見えますが、  
南方にはあまりいません。

タカハダイのタカハダイは、  
胸びれが大きいのに

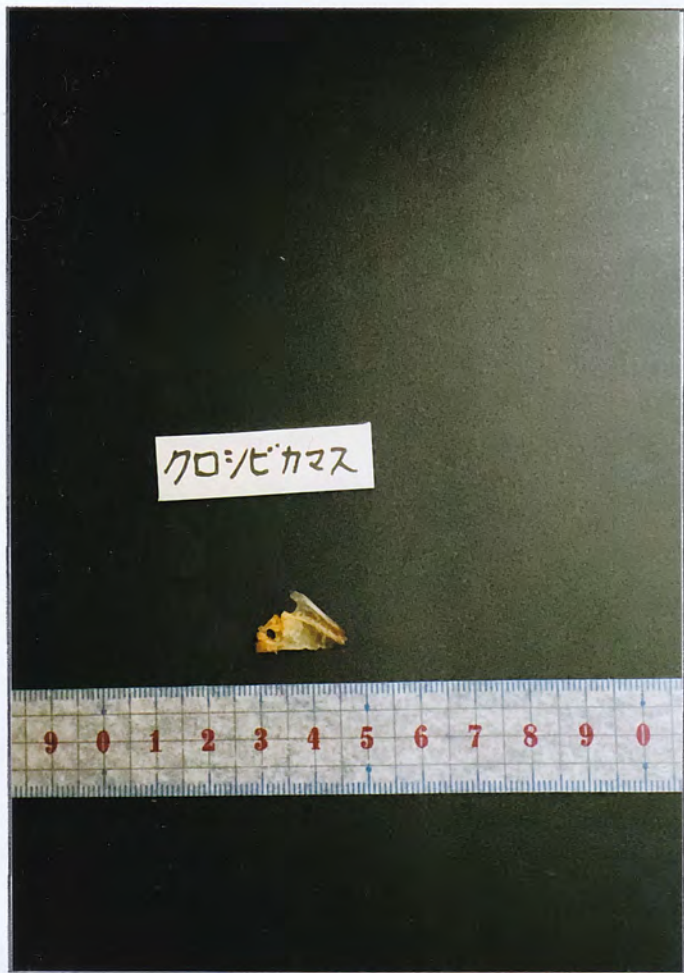
特長的な  
ななめの  
しまよう



とても小さかたです。

# クロシビカマス

(スズキ目クロタチカマス科)



クロシビカマスは、黒っぽい体色をしています。そのため、「スミヤキ」とよく呼ばれています。実際にぼくがクロシビカマスを買った魚屋さんでも、「スミヤキ」と呼ばれていました。腹びれは退化し小さくなっています。口は大きくすると歯が無数に生えています。この歯で釣り糸を切ってしまうため、「ナワキリ」とも呼ばれます。クロシビカマスのクロシビカマスは、尾の部分がこげてしまったので、もう一度挑戦してみたいです。

